

上三川 近代化の歩み

明治維新から戦前まで

明治維新に始まる近代化

現代の日本の基礎が築かれたのは、明治時代以降であるといって過言ではありません。大政奉還により武士の支配は終わり、資本主義を取り入れた新たな国家が築かれます。明治政府が最も力を入れたのは、経済や軍備で欧米各国に負けないような国を築くことでした。皆さんも知っている通り、江戸幕府はキリスト教の広まりを防ぎ、海外への人の往来を規制し、貿易を統制するために鎖国を行い、幕府の権力を確固たるものとして、約260年にも及ぶ平和な世の中をつくりました。しかし、長年に及ぶ鎖国政策は、日本の近代化を妨げる大きな弊害になってしまったのです。

日本がまだ江戸時代であった18世紀の後半に、イギリスをはじめとした欧米列強は、大規模な機械を使用した工業を確立し（産業革命）、



明治時代以降の近代化の中で多くの西洋風の建物が栃木県内にも建てられました（絵：高橋由一「栃木県庁之図」明治17年）

大量生産される商品の原料や燃料などの調達と消費地を求めて、植民地を広げていきました。江戸時代の末期、日本に開国を要求した欧米各国は、既に近代国家としての大きな発展を遂げており、これらの国々と肩を並べるために、江戸時代の間変わることなく続いた多くの社会のシステムを、早急に変える必要がありました。

地方の末端まで支配するための地方自治制度の改革、安定した財源の確保のための土地・租税制度の改革、そして国の経済基盤の強化を図るために各種工業・農業・商業において西欧からの技術を導入しました。また、鉄道を中心とした交通網を整備し、更には郵便をはじめとした通信技術を発達させ、人・物・情報の流れを活発化させ、経済の活性化を図る一方で、人的な面でも教育制度を確立し、優秀な人材の育成をするなど、あらゆる面から富国強兵を図りました。

このような近代化の波は、上三川の地にも押し寄せ、各方面で大きな影響を及ぼしました。わずかに数十年で日本が欧米列強に肩を並べるに至ったこの時期は、上三川にとっても大きな変革期といつてよいでしょう。今年度は、明治から戦前に至る上三川の近代化の流れを説明します。

名俳句

ひな祭知らぬ男系家族かな

浜野正男

追伸に書かれし本音暖かし

大八木喜重郎

綿雲に吸はるる如く立ち竦む

柳田石村

町のもの全てを揺らす春の嵐

伊沢静香

坪庭の隅に水仙丈のぼす

浜野マス子

囀りや個性豊かな旅姉妹

阿部信子

啓蟄や何かせぬかと腰手拭

野沢花枝

背を丸め芹摘む媼遠筑波

上野キミエ

静かなるホームの庭に黄砂舞ふ

石崎節子

避雷針の刺せる天心春の月

蓬田四方

